## 全内臟轉錯症ノ一例追加

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30789

誌 第二十九卷第二號(第二百十七號)

大正十三年二月一日發行

ها الموروا الله الله الله والموروا الهوا الموروا الهور الفرور الفرور الموروا ا

原

全 內 臟 轉 錯 症 , 例 追 加

金澤醫科大學附屬醫院第一內科(主任行德教授)

武 部

伴

吉

totalis·)ノ一實驗例ヲ報告シ統計資料ニ供セントス。 セラレタルヲ以テ、余ハ是ニ再ビ其等ニ就テ贅言スルヲ避ケ唯最近當科ニ於 テ得タル 全内臟轉錯症 (Situs inversus 本誌昨年十二號(第二十八卷第十二號)ニ於テ桑野氏ハ「内臟轉錯症ニ就テ」ト題シ該症ノ發生其他ニ就テ諸說ヲ詳述

## 實 驗 例

淺○チ○、女、二十三歲、金澤市中橋町在住。

初診。 大正十二年十一月二十九日。

主訴。 眩暈、不眠、心悸亢進、全身倦怠。

遺傳的關係。 父ハ四十歳母ハ四十七歳共ニ健在、同胞ハ四人アリテ患者ハ其初子ナリ、 第二ハ女十八歳第三ハ男

原 著 武部=全内臟轉錯症ノー例追加

日 二 十四歳第四男十二歳皆健ナリ、 有セズトロ シ ラ不明ノ疾患ニテ死ス、父母ハ血族結婚(從兄妹)ニシテ母ハ左利ナリト云フ、 患者ハ二十歳ノ時健康ナル男子ト結婚シ二十一歳ニシテ一兒ヲ分娩シタ 其他近親中ニ双胎畸形左利等ヲ jν モ生後百 餘

時姙娠中强度ノ惡疽ノ為メニ惱メリト云フ、 既往症。 生來健ナラズ、麻疹種痘經過、 八歳ノ時「マラリヤ」ニ十三歳ノ時痔核ニ罹リタル外著患ナシ、 又患者ハ右利ナリ。 廿一歳ノ

月經整調(量及日數普通)腸寄生蟲ノ既往症ナク特ニ嗜好品ナシ。 狀ハ依然タリ、 年一月ニ至リ子宮後屈症ノ診ノ下ニ某院ニ於ラ手術ヲ受ケタリ、 ヲ受ケタル 眩暈ハ依然トシラ止マズ、依ラ婦人科的原因ニ依ルモノナラント後數箇月婦人科醫ニヨリ洗滌 其他ノ治療ヲ受ケ本 現病歷。 ガ 其節心臓ガ右胸ニアリト注意セラレ始メラ自身畸形ナルコトニ氣付キタリ、其後咳嗽、 昨年九月初旬感冒ニ罹リタルガ當時ヨリ咳嗽、 終ニ前記主訴ヲ以テ當院第一内科外來ニ診ヲ乞ヘリ、 喀痰、 手術後ノ經過ハ順調ナリシモ眩暈、 眩暈、全身倦怠、心悸亢進アリ、 目下食慾尋常便通一日一行、 尿利一日 喀痰 某醫ヲ訪ヒ治療 心悸亢進等ノ症 い 軽快セ 四、五回、

輝裂ヲ認 現症。 體格榮養中等、皮膚、眼瞼粘膜尋常、 齒牙ハ下顎小臼齒三個缺、 上顎小臼齒一門齒三個缺共ニ義齒ヲ用フ。 顔面ニニニノ雀斑ヲ認ムル外異常ナシ、 口唇粘膜乾燥發赤シ諸所ニ

テ淋巴濾泡肥厚シテー見肉芽様ヲ爲ス、 口腔粘膜ハ一般ニ充血、舌發赤、 口蓋扁桃腺ハ兩側共ニ中等度ニ肥大前後口蓋弓腫脹シラ 色稍赤咽頭ノ粘膜 舌根扁桃腺 ۱ر 十數個肥大特ニ中央部ニ孤立シテ肥大セ jν Æ ノア い、發赤

鼻腔、 兩側下甲介腫大セリ、 五%コカイン水塗布ニョ リ腫脹忽チ消退ス、後鼻腔ハ一般ニ充血腫脹アル ノミ、 即チ

咽腔淋巴系統ハ全部腫脹肥大アリ。

化ナシ、 右皷膜 歐氏管兩側共稍狭キ威アルモ通氣シ得、 |ハ輕度ノ凹陷ヲ示シ前下方、後下方部ニハ高度ノ溷濁アリ、 雑香ヲ聽ク。 左皷膜モ右ト 同様凹陷溷濁アリ 皷膜運動

頸腺淋巴腺ノ腫大セルモノナシ。

第五肋間以下濁音ヲ呈セリ、聽診上心音ニ異常ヲ認メズ。肺臟、聽診上左肺尖ニ於ラ 呼氣延長呼吸音稍銳利ナルヲ認 リ内方右副胸骨線及右胸骨線ニ於ラ第三肋間以下濁音左胸前面ハ左副胸骨線ニ於ラ 第五肋骨以下濁音左乳線ニ於ラ 胸部。 視診上腋毛ノ發生ナク左右乳房ノ大サ略同樣心尖搏動ハ右乳頭内方ニ觸ル。 心臓、 打診上右界八右乳腺上

ル外著變ナシ、聲音振顫ハ左右同等尋常ナリ。

肺臓ハ下界後面ニ於ラ右側ノ一横指下降セルヲ認ム、尙右胸ニ於テ「トラウベ」氏半月狀部ニ一致セル所見アリ。

食道嚥下雑音ハ胸椎棘狀突起ノ右側ニ於ラ著明ナリ。

腹部。

下界ハ臍上半横指ニ亘ル間一般ニ膨隆シ特ニ右側上腹部ニ於テ甚シ。

視診上觸診上異常ヲ認メズ、肝臓及脾臟ハ之ヲ觸ル、能ハズ、

胃膨滿試驗法ニ依テ上界剱狀突起下二横指

反射機、膝蓋腱反射角膜反射咽頭反射尋常。

脈膊一分時七十至整調、血壓百十二(タイコス)

尿檢查。 反應酸性稍溷濁シ熱スレバ透明トナル沈査ニ尿酸鹽ヲ認ム、

蛋白、

糞便檢查。 寄生蟲ハ鞭蟲卵ヲ認ムル外異常ナシ。

胃內容檢查。 血液檢查。 二回試ミタルモ患者過敏ニシテ共ニ採取不能 赤 Ń 球 數 三六〇〇〇〇〇 二終レリの

素 量(ザー 六五%

Ĺ

色

血 白 色 Ń 素 球 係 數 數

四八〇〇 〇八八八

淋

四九%

巴

大單核細胞及移行型

四
主
%

球

四四%

ン ŀ ゲ ン的檢查

Z.

オデン嗜好多形核細胞

中性嗜好多形核細胞

原 著 武部=全内藤轉錯症ノー例追加

原

腺多少ノ陰翳ヲ認ムルモ蓍變ナシ、肺尖部ニハ少シク陰翳(左ニ强シ)ヲ認メ咳嗽ニヨリ該陰翳部ハ透明トナル。 横膈膜位置右第六肋骨、 圖)ハ全ク右側鏡像的位置ニ存在シ形狀膊動ニハ變化ヲ認メズ、 左第六肋間ニ位シ運動ニョリ兩側共ニ異常ヲ認メズ、 肺臓肺野陰翳(第一圖) ハ著明ナラズ肺門部淋巴 心臟背腹位方向透視ニ於テ心臟陰翳

下部ニ之ヲ認ム。(第一圖) 内ニハ「バリウム」ノ殘留ヲ認メズ、腸「バリウム」攝取後廿四時間ニシテ檢スルニ廻盲部(第三圖) ハ左側腸骨窩ニ存在 門部ハ鏡像的位置ヲ示セリ、 シ左側結腸彎曲部ハ腸骨櫛ヨリ少シク上方ニアリ右側結腸彎曲部ハ位置尋常左側ニ比シ遙ニ高シ、 腹部。 胃早朝空腹時ニ「バリウム」造影劑ヲ攝取セシメテ檢査セルニ胃泡ハ右側橫膈膜下ニ存在シ(第二圖) 胃體 胃形ハ牛角型ニ傾キ鉤狀位著明ナリ、 蠕動ニハ變化ナシ攝取後三時間ニシテ 檢セ 肝臓陰翳ハ左季肋 jν 二胃

臨床的診斷。 全內臟轉錯症、中耳加答兒、兩側肥大性扁桃腺炎、兩側歐氏管炎、舌根濾泡肥大症、慢性鼻咽頭炎。

## 論

結

記ユベキ變化ナシ、唯患者ノ血液檢查上中性嗜好細胞減少シ淋巴球增多症ノ存在 否ヤ 腫大ニョリテ患者ハ所謂淋巴性體質(Status lymphaticus)ニ鷹スルモノトシテモ之ガ本症トノ間ニ何等カ 以上ノ實驗例ニ於テ得タル成績ヲ見ルニ既往文獻ニ現ハレタル特殊檢査ノ成績ニ略一致シタル症狀ヲ認ムル外特 ハ尙不明ナリ。 Ł jν ト口腔咽喉部ニ於ケ jν ノ關係アル 淋巴系統

終リニ臨ンデ恩師行德教授ノ御校閱ヲ深謝シ、 寫真製作上便宜ヲ與ヘラレ タル理學的診療科醫局各位及耳鼻科石丸

氏ニ感謝ノ意ヲ表ス。

+

文獻省略ス。

圖 一 第





